

令和5年度第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会  
2024/3/17@国立国語研究所

# 動詞接辞を中心とした 高知方言のTAM体系

中澤 光平

(信州大学)

kohein@shinshu-u.ac.jp

# 謝辞

- 本研究は、若手研究(課題番号:21K12993)「日本語諸方言の接触地域における系統関係の解明」(代表:中澤光平)ならびに基盤研究(A)(課題番号:23H00007)「日本語諸方言の形態素解析用辞書の構築と活用」(代表:小木曾智信)の支援を受けています。

# 本発表の目的

- 本発表では、高知県高知市および南国市での発表者による現地調査で得られたデータに基づき、高知方言（高知市方言、南国市方言）のテンス・アスペクト・モダリティ体系について、動詞接辞を中心に形式と意味の整理を行う。とりわけ、次の点に焦点をあてて論じる。
  - 「ユー / チュー」(-yor-/-cyor-)の機能
  - とりたて形
  - 他方言との比較、対照

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順と共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス、アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順と共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス、アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

# 1. 高知方言について

## 1.1. 高知方言

- 高知県の方言は大きく東部～中部方言と西部方言に分かれ，前者を土佐方言，後者を幡多方言などと呼ぶ（上野編2020: 2）。
- 高知市や南国市の方言は土佐方言の大部分を占める高知地区の方言に属する。
- 本発表では高知市周辺の方言という意味で，高知市，南国市で話される諸方言を高知方言と呼ぶことにする。

# 1. 高知方言について



<http://hougen.sakura.ne.jp/shuppan/2017/3-14.pdf> より

# 1. 高知方言について

- 高知方言の音声・音韻的な特徴（80歳～？）
  - 語中のガ行・ダ行子音の前鼻音[ $\sim$ g], [ $\sim$ d]
  - ジ[zi], ズ[zu], チ[ $\sim$ dzi], ツ[ $\sim$ dzu]の区別
- 形態音韻論的な特徴
  - ナ行変格活用シヌル「死ぬ」, イヌル「往ぬ」
  - サ行イ音便（例：ダイタ「出した」）
  - キーテ「着て」, ニーテ「煮て」, ネーテ「寝て」
  - 助詞ワ「は」, オ「を」が直前の語と融合（〔例〕ムカシャー「昔は」, ハナシヨ「話を」）



# 1. 高知方言について

- 高知方言のアクセント体系
  - 2式(H, L)と(下げ)核の位置, 有無が弁別的
  - 核の語頭からの位置を数字で表す(0は無核)。

(1)

H0	H-H	HH-H	HHH-H	HHHH-H	HHHHH-H	HHHHHH-H
H1	H-L	HL-L	HLL-L	HLLL-L	HLLLL-L	HLLLLL-L
H2			HHL-L	HHLL-L	HHLLL-L	HHLLLL-L
H3				HHHL-L	HHHLL-L	HHHLLL-L
H4					HHHHL-L	HHHHLL-L
H5						HHHHHL-L

# 1. 高知方言について

(1)

L0	L-H	LH-H	LHH-H	LHHH-H	LHHHH-H	LHHHHH-H
L2		LH-L	LHL-L	LHLL-L	LHLLL-L	LHLLLL-L
L3				LHHL-L	LHHLL-L	LHHLLL-L
L4					LHHHL-L	LHHHLL-L
L5						LHHHHL-L

中井(1997: ivより。-Xは助詞ガのアクセント)

- 近畿周辺の方言には式と核の位置で音調が指定されるアクセントが分布(中井編2002)。
- 式と核で指定される音調およびその範囲を本発表ではアクセント単位と呼ぶ。



# 1. 高知方言について

- 高知方言の音声・音韻的な特徴（80歳～？）
  - 語中のガ行・ダ行子音の前鼻音[ $\sim$ g], [ $\sim$ d]
  - ジ[zi], ズ[zu], チ[ $\sim$ dzi], ツ[ $\sim$ dzu]の区別
- 形態音韻論的な特徴
  - ナ行変格活用シヌル「死ぬ」、イヌル「往ぬ」
  - サ行イ音便（例：ダイタ「出した」）
  - キーテ「着て」、ニーテ「煮て」、ネーテ「寝て」
  - 助詞ワ「は」、オ「を」が直前の語と融合（〔例〕ムカシヤー「昔は」、ハナシヨ「話を」）

# 1. 高知方言について

- 本発表で用いる高知方言の表記
- 母音音素: /a/, /i/, /u/, /e/, /o/
- 子音音素: /k/, /g/, /s/, /z/, /t/, /c/ [ts] ~ [tʃ], /d/, /n/, /h/, /b/, /p/, /m/, /y/ [j], /r/, /w/
- 特殊音素(モーラを担う音素): /Q/ (促音), /N/ (撥音)
- 拗音は /Cy/ で表す。長母音はVVで表す。
- 接辞境界を -、接語境界を =、語境界を # で表す。アクセントは ó (H), ò (L) で表す。

# 1. 高知方言について

## • 1.2 高知方言のTAM体系

次のような接辞によって表される。

(2) a. <i>-ru</i>	[miru]	「見る」
b. <i>-ta</i>	[mita]	「見た」
c. <i>-cyor-</i>	[mitfu:]	「見ている(完了)」
d. <i>-yor-</i>	[miju:]	「見ている(進行)」
e. <i>-e</i>	[mi:, mie]	「見ろ」
f. <i>-na</i>	[miruna]	「見るな」
	[mina]	「見るな」

# 1. 高知方言について

## • 高知方言のTAM体系(2)

TAMは接語、補助動詞、文末詞、副詞など接辞以外でも表されるが今回は接辞に焦点を当てる。

- 各接辞の機能は概ね明らかにされているが、どの接辞と共起可能かなどは必ずしも明らかでない。
- そのため、本発表では接辞同士の共起関係を中心に、TAMの形式を網羅することを主な目的とする。
- 各形式の機能についても若干考察する。

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. **調査概要**
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ



## 2. 調査概要

- 2018年～2024年に高知市および南国市で実施。調査者は発表者1人。本発表の分析に用いる主なデータは次の2名の話者のもの。

- (3) 話者A 藤本 眞事(1932年生, 男, 南国市)  
話者B 岡本 純一(1948年生, 男, 高知市)

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. **動詞活用のパラダイム**
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

### 3. 動詞活用のパラダイム

- 派生接辞には次のようなものがある。

(4) a. 進行	-yor-	tabeyuu, (tabeyoru)
b. 完了	-cyor-	tabecyuu, (tabecyoru)
c. 使役	-sas-	tabesasu, (taberasu)
	-sase-	tabesaseru, (taberaseru)
d. 受身	-rare-	taberareru
e. 可能	-re-	tabereru
f. 希望	-ta-	tabetai
g. 丁寧	-mas-	tabemasu

### 3. 動詞活用のパラダイム

- 屈折接辞には次のようなものがある。

(5) a. 非過去	-ru	tabe <u>ru</u> , kaku
b. 過去	-ta	tabe <u>ta</u> , kaita
c. 条件	-ryaa	tabe <u>ryaa</u> , kaku <u>ryaa</u>
d. 継起	-te	tabe <u>te</u> , kaite
e. 命令	-e	tabe <u>e</u> , kake
f. 禁止1	-na	tabe[ru] <u>na</u> , kakuna, kakina
g. 禁止2	-rareN	tabe <u>rareN</u> , kakareN
h. 意志	-oo	tabe <u>yoo</u> , (tabe <u>roo</u> ), kakoo

### 3. 動詞活用のパラダイム

- 屈折接辞同士は原則として共起しない。そのため次の形式は分析できないものと解釈する。

- (6) a. 過去条件 *-tara*    *tabetara, kaitara*  
b. 過去中止 *-tari*    *tabetari, kaitari*

- しかし、禁止接辞が例外となる。

- (7) a. *-ru-na*    *taberuna, kakuna* (終止形)  
b. *-i-na*    *tabena, kakina* (連用形)

### 3. 動詞活用のパラダイム

- *-runa* と *-ina* という異なる否定接辞と分析することも可能だが、「来る」「する」の禁止形を含め3つの禁止接辞を認める必要がある。

- (8) a. *-runà* *tábèrùnà*, *kàkúnà*, *kùrúnà*, *súrùnà*  
b. *-íná* *tàbéná*, *kàkíná*, *kíná*, *síná*  
c. *-nà* (*tàbéna*), ----, *kúnà*, *súnà*

- 母音語幹動詞では b と c が *tabena*「食べるな」と同形となるが、アクセントが異なる。

### 3. 動詞活用のパラダイム

- 否定を表す形式は次の通り。

(9) a. 否定	-N	<i>tabeN, kakaN</i>
b. 否定過去	-zatta	<i>tabezatta</i>
c. 否定条件	-nyaa	<i>tabenyaa</i>
d. 否定継起	-ide, -Nde	<i>tabeide, -Nde</i>
e. 否定過去条件	-zattara	<i>tabezattara</i>

- 否定命令形、否定禁止形はない。
- 否定意志は-*mai*。(中井1997: 222)

### 3. 動詞活用のパラダイム

- (9) を全て屈折接辞と見なすのではなく、*-N*と他の屈折接辞との組み合わせと分析する。

(9')	b. 否定過去	<i>-zatta</i>	← <i>-N + -ta</i>
	c. 否定条件	<i>-nyaa</i>	← <i>-N + -ryaa</i>
	d. 否定継起	<i>-ide, -Nde</i>	← <i>-N + -te</i>
	e. 否定過去条件	<i>-zatta</i>	← <i>-N + -tara</i>

- *-N* は派生接辞と見た方が自然だが、禁止接辞の分析次第では屈折接辞とも見なせる。



# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 3.1 語順・共起関係

- これらの接辞については先行研究ですでに概ね示されている。
- しかし、各接辞が他の接辞とともに用いられるかシンタグマティックな関係、あるいは異なる接辞が同じスロットに属するかというパラダイグマティックな関係については管見の限り示されていない。
- 接辞の共起関係について、これまでの調査で確認できた範囲で整理する。

# 3.1 語順・共起關係

屈折 \ 派生	進行	完了	使役	受身	可能	希望	丁寧
非過去	○	○	○	○	○	○	○
過去	○	○	○	○	○	○	○
条件	○	○	○	○	○	○	×
繼起	○	○	○	○	○	○	×
命令	○	○	○	×	×	×	×
禁止1	○	○	○	○	×	×	×
禁止2	○	○	○	×	×	×	×
意志	○	○	○	○	○	×	○
否定	○	○	○	○	○	×	○

## 3.1 語順・共起関係

- 進行接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(10) a. 進行-過去	-yor-ta	<i>kiyotta</i> 「着-」
b. 進行-条件	-yor-ryaa	<i>kiyoryaa</i>
c. 進行-継起	-yor-te	<i>kiyotte</i>
d. 進行-命令	-yor-e	<i>kiyore</i>
e. 進行-禁止1	-yor-ru-na	<i>kiyoruna</i>
f. 進行-禁止2	-yor-rareN	<i>kiyorareN</i>
g. 進行-意志	-yor-oo	<i>kiyoro</i>
h. 進行-否定	-yora-N	<i>kiyoraN</i>

## 3.1 語順・共起関係

- 完了接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(11) a. 完了-過去	-cyor-ta	kii <b>cyotta</b> 「着-」
b. 完了-条件	-cyor-ryaa	kii <b>cyoryaa</b>
c. 完了-継起	-cyor-te	kii <b>cyotte</b>
d. 完了-命令	-cyor-e	kii <b>cyore</b>
e. 完了-禁止1	-cyor-ru-na	kii <b>cyoruna</b>
f. 完了-禁止2	-cyor-rareN	kii <b>cyorareN</b>
g. 完了-意志	-cyor-oo	kii <b>cyoroo</b>
h. 完了-否定	-cyora-N	kii <b>cyoraN</b>

## 3.1 語順・共起関係

- 使役接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(12) a. 使役-過去	- <i>sas-ta</i>	<i>tabe</i> <b><i>saita</i></b> 「食-」
b. 使役-条件	- <i>sas-ryaa</i>	<i>tabe</i> <b><i>sasyaa</i></b>
c. 使役-継起	- <i>sas-te</i>	<i>tabe</i> <b><i>saite</i></b>
d. 使役-命令	- <i>sas-e</i>	<i>tabe</i> <b><i>sase</i></b> [ <i>ya</i> ]
e. 使役-禁止1	- <i>sas-ru-na</i>	<i>tabe</i> <b><i>sasuna</i></b>
f. 使役-禁止2	- <i>sas-rareN</i>	<i>tabe</i> <b><i>sasareN</i></b>
g. 使役-意志	- <i>sas-oo</i>	<i>tabe</i> <b><i>sasoo</i></b>
h. 使役-否定	- <i>sasa-N</i>	<i>tabe</i> <b><i>sasaN</i></b>

## 3.1 語順・共起関係

- 受身接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(13) a. 受身-過去	<i>-rare-ta</i>	<i>taberareta</i>
b. 受身-条件	<i>-rare-ryaa</i>	<i>taberarereryaa</i>
c. 受身-継起	<i>-rare-te</i>	<i>taberarete</i>
d. 受身-禁止1	<i>-rare(-ru)-na</i>	<i>taberare(ru)na</i>
e. 受身-意志	<i>-rare-oo</i>	<i>taberareyoo</i>
f. 受身-否定	<i>-rare-N</i>	<i>taberareN</i>

- 受身-命令、受身-禁止2は不可という。

## 3.1 語順・共起関係

- 可能接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(14) a. 可能-過去	-re-ta	tabereta
b. 可能-条件	-re-ryaa	tabereyaa
c. 可能-継起	-re-te	taberete
e. 可能-意志	-re-oo	tabereyoo
f. 可能-否定	-re-N	tabereN

- 可能-命令、可能-禁止1、可能-禁止2は不可という。



## 3.1 語順・共起関係

- 希望接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(15) a. 希望-過去	-ta-ku-ta	<i>kitakatta</i>
b. 希望-条件	-ta-ku-ryaa	<i>kitakeryaa</i>
c. 希望-継起	-ta-ku-te	<i>kitootte</i>

- 希望-命令、希望-禁止1、希望-禁止2、希望-意志、希望-否定は不可。

## 3.1 語順・共起関係

- 丁寧接辞と屈折接辞の共起関係は次の通り。

(16) a. 丁寧-過去	-masi-ta	<i>kimasita</i>
b. 丁寧-意志	-masy-oo	<i>kimasyoo</i>
c. 丁寧-否定	-mase-N	<i>kimaseN</i>

- 丁寧-条件、丁寧-継起、丁寧-命令、丁寧-禁止1、丁寧-禁止2は不可。*kimasee*は「？」
- *kimasezatta*, *kimasenyaa*, *kimasezattara*も不使。

## 3.1 語順・共起関係

- 派生接辞同士の順序と共起関係は次の通り。

(17) a. 使役-受身	-sas-rare-	<i>misasareru</i>
b. 使役-進行	-sas-i-yor-	<i>misasiyuu</i>
c. 使役-完了	-sas-cyor-	<i>misaicyuu</i>
d. 使役-希望	-sas-i-ta-	<i>misasitai</i>
e. 使役-丁寧	-sas-i-mas-	<i>misasimasu</i>

- 使役-可能 -sas-re-, -sase-re- は不使 (*misaseru* は同音衝突、*misasereru* は意味はわかると)。

## 3.1 語順・共起関係

- 受身接辞との順序と共起関係は次の通り。

(18) a. 受身-進行	-rare-yor-	<i>mirareyuu</i>
b. 受身-完了	-rare-cyor-	<i>mirarecyuu</i>
c. 受身-希望	-rare-ta-	<i>miraretai</i>
d. 受身-丁寧	-rare-mas-	<i>miraremasu</i>

- 受身-可能 *-rare-re-* は不使 (*mirarerereru* は可能にしか取れないと。文脈次第では可か？)。

## 3.1 語順・共起関係

- 進行接辞との順序と共起関係は次の通り。

(19) a. 進行-可能	-yor-re-	<i>kiyore</i> eru「着-」
b. 進行-希望	-yor-i-ta-	<i>kiyoritai</i>
c. 進行-丁寧	-yor-i-mas-	<i>kiyorimasu</i>
d. 完了-可能	-cyor-re-	<i>kicyore</i> eru
e. 完了-希望	-cyor-i-ta-	<i>kicyoritai</i>
f. 完了-丁寧	-cyor-i-mas-	<i>kicyorimasu</i>

- yor- と -cyor- は共起しない。(例外あり?)

## 3.1 語順・共起関係

- 可能接辞との順序と共起関係は次の通り。

(20) a. 可能-丁寧 *-re-mas-* *kiremasu*

- 可能-希望 *-re-ta-* は不使か (*kiretail*は「何とかして～」で言えなくもなさそうだと)。
- また、希望 *-ta-* と丁寧 *-mas-* の後に他の派生接辞は後続しない。

## 3.1 語順・共起関係

- 派生接辞同士の共起関係を整理すると次の通り。

前 \ 後	受身	進行	完了	可能	希望	丁寧
使役	○	○	○	×	○	○
受身		○	○	×	○	○
進行			×	○	○	○
完了				○	○	○
可能					× ?	○
希望						×

## 3.1 語順・共起関係

- 以上より、接辞の順序は次のように整理できる。

(21) <sup>1</sup>使役 - <sup>2</sup>受身 - <sup>3</sup>{進行/完了} - <sup>4</sup>可能 - <sup>5</sup>{丁寧/希望} - <sup>6</sup>否定 - <sup>7</sup>{屈折接辞}

- 全てのスロットが埋まる場合、最大7つの接辞が後続することになるが、「丁寧-否定-屈折接辞」と「希望-否定」の組み合わせがないため6が上限。〔例〕*[ki]-<sup>1</sup>sas-<sup>2</sup>are-<sup>3</sup>cyor-<sup>4</sup>e-<sup>5</sup>zat-<sup>6</sup>ta*



# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態**
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 3.2 接辞の異形態

- 接辞の異形態を以下にまとめる。
- 非過去 *-ru*、条件 *-ryaa*、禁止 *-rareN*  
母音語幹動詞に後続する場合は *-ru*, *-ryaa*,  
*-rareN*、子音語幹動詞では *-u*, *-yaa*, *-areN*。  
*miru*, *kaku*, *suru*, *kuru*  
*miryaa*, *kakyaa*, *suryaa*, *kuryaa*  
*mirareN*, *kakareN*, *serareN*, *korareN*

## 3.2 接辞の異形態

- 過去 *-ta*、継起 *-te*

子音語幹動詞では音便を起こすとともに、  
*-g-*, *-b-*, (*-n-*), *-m-* では *-da*, *-de* になる。

*mita*, *kaita*, *sita*, *kita*

*kak-u* → *kai-ta*      *kag-u* → *kai-da*

*kas-u* → *kai-ta*      *tob-u* → *toN-da*

*kac-u* → *kaQ-ta*      (*sin-u*) → *siN-da*

*kar-u* → *kaQ-ta*      *yom-u* → *yoN-da*

*kaw-u* → *koo-ta*      ※*sinuru*, *inuru* が主。

## 3.2 接辞の異形態

- 命令 -e

i語幹動詞では -i と -e が自由変異で現れる。

*mî* ~ *míè*, *kàké*, *séè*, *kói*

- 意志 -oo

母音語幹動詞では -yoo となる他 -roo にもなる。「する」、「来る」は *syoo*, *koo* にもなる。

*míyòò* ~ *míròò*, *kákòò*, *síyóó* ~ *syóó*, *kóyòò* ~ *kòó*

## 3.2 接辞の異形態

- 使役 *-sas(e)-*

母音語幹動詞に後続する場合、*-sas(e)-*、*-ras(e)-* の2形がある（老年層では前者が優勢）。

*tabe****sasu***, *tabe****rasu***, *tabe****saseru***, *tabe****raseru***

- 進行 *-yor-*

非過去 *-ru* が後続すると *-yuu*、*-you* にもなる。

*tabe****yuu***, *tabe****you*** | *tabe-yor-u* |

## 3.2 接辞の異形態

- 完了 *-cyor-*

非過去 *-ru* が後続すると *-cyuu*, *-cyou* にもなる (*-cyuu* が優勢)。

子音語幹動詞では音便を起こすとともに、*-g-*, *-b-*, (*-n-*), *-m-* では *-zyuu*, *-zyou*, *-zyoru* になる。

*tabecyuu*, *tabecyou* | *tabe-cyor-u* |

*yoNzyuu*, *yoNzyou*, *yoNzyoru*

※80代～(?)では [(~)dʒ-] で [ʒ-] と対立。

## 3.2 接辞の異形態

- 可能 *-re-*

母音語幹動詞に後続する場合は *-re-*、子音語幹動詞では *-e-*。さらに *-(r)are-*, *-(r)ere-* もある。

*tabereru, taberareru, taberereru*

*kakeru, kakareru, kakereru*

*téNkiga yóo nàttára ikereru.*

「天気良くなったら行ける。」

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位**
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ



### 3.3 アクセント単位

- 1つの式と1つの核の組み合わせで記述できる単位を1アクセント単位と見なす。

(22) a. H0: H(H), HH, HHH, HHHH, HHHHH, ...

b. Hk: H(L), HL, HLL, HHL, HLLL, HHLL, ...

c. L0: L(H), LH(H), LHH, LHHH, LHHH, ...

c. Lk: LH(L), LHL, LHH(L), LHLL, LHHL, ...

- kは有核の意。Hk = H1, H2, H3, ...

### 3.3 アクセント単位

- 接辞が付いても原則として1アクセント単位になる。

(23) *kàk-ú* (L0), *kák-è-rù* (H1), *kák-às-ù* (H1),  
*kák-àrè-rù* (H2), *kák-ás-àrè-rù* (H3),  
*kák-às-ì-yù-ù* (H1), *kák-àrè-yù-ù* (H1),  
*kák-àré-cyù-ù* (H4), *kák-ás-àrè-yù-ù* (H3), ...

### 3.3 アクセント単位

- しかし、卓立などで1アクセント単位に収まらない音調もしばしば観察される。

(24) *kák-às-yáà*, *ákè-tárà*, *yásùm-ì-yú-ù*, ...

- *-tárà*, *-yú-ù* は比較的卓立しやすく、1アクセント単位をなすと見ることもできる。
- 2モーラ以上の助詞でも同様の現象が見られ、1アクセント単位をなすとする分析がある(中井1997: 208-210)。

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- テンスに関わる接辞 *-ru/-ta* とアスペクトに関わる接辞 *-yor-/-cyor-* とから導かれる下記形式について調査。
  - *-ru, -yuu, -cyuu, -ta, -yotta, -cyotta*
- テンスとアスペクトは次のものを調査。
  - 時制: 現在、過去、未来
  - 相: 完成、始動、経験、結果、習慣、進行、反復

# 4. テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yuu</i>	<i>-cyuu</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-cyotta</i>
現在・完成	◎	○	○	○	○	○
過去・完成	×	×	○	◎	○	○
未来・完成	◎	○	△	×	×	×
現在・始動	○	△	×	×	×	×
過去・始動	×	×	○	○	○	○
未来・始動	○	△	×	×	×	×
現在・経験	×	×	○	○	○	○
過去・経験	×	×	○	○	○	○
未来・経験	○	△	×	×	×	×

# 4. テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yuu</i>	<i>-cyuu</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-cyotta</i>
現在・結果	×	×	◎	○	○	○
過去・結果	×	×	○	○	○	◎
未来・結果	○	△	◎	×	×	×
現在・習慣	○	○	×	×	×	×
過去・習慣	×	×	×	○	○	○
未来・習慣	○	○	×	×	×	×
現在・進行	○	◎	△	×	×	×
過去・進行	×	×	×	△	◎	○
未来・進行	○	◎	△	×	×	×

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yuu</i>	<i>-cyuu</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-cyotta</i>
現在・反復	○	◎	○	△	△	△
過去・反復	×	×	○	○	◎	○
未来・反復	○	◎	△	×	×	×

- *-ta* の付く *-ta*, *-yotta*, *-cyotta* は過去の事態を表す場合に用いられるため、*-ta* は過去時制を表す形式と見て良いだろう。
- *-cyuu* も *-ta*, *-yotta*, *-cyotta* と共通の環境で用いられ、過去時制を表す形式にもなっているか。



## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- ただし、*-cyor-* は「ネガティブ」といったモーダルな意味を持つことがある。

*maiasa tabeyuu/tabeyotta.* に対し、

*maiasa tabecyuu/tabecyotta.* は勝手に行っているといったニュアンスがある。

- *-cyor-* は話者間で用法の差が大きく、「完了」を中心としたアスペクト形式から、*-yor-* の用法に拡大を示したり、テンス、モダリティを表す形式へシフトしたりしつつあるようだ。

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- 相対テンスは次の例で調べた。
  - 東京にいるときにカメラを買う。
  - 東京に行くときにカメラを買う。
  - 東京で働くときにカメラを買う。
- 従属節は *-ru*, *-yuu*, *-cyuu*, *-ta*, *-yotta*, *-cyotta* の6形式、主節は *-ru*, *-ta* の2形式のそれぞれ12パターン、合計36パターンの文について可能かを調査。

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- 不可だったのは次の組み合わせ。
  - 東京にいるときにカメラを買う。
    - ✓ 従属節 *-yotta*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-cyotta*、主節 *-ru*
  - 東京に行くときにカメラを買う。
    - ✓ 従属節 *-cyotta*、主節 *-ru*
  - 東京で働くときにカメラを買う。
    - ✓ 従属節 *-ta*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-yotta*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-cyuu*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-cyotta*、主節 *-ru*

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- *-te#ik-*, *-te#ku-*, *-te#ar-* ~ *-cyaar-*, *-te#ok-* ~ *-cyok-*, *-te simaw-* はアスペクトに近い働きをするが、これらの形式にも *-yor-/ -cyor-* が後続するため純粋なアスペクト標識ではないと考えられる。
  - *huete kiyuu/kicyuu*.「増えてきている」
  - *huete ikiyuu/iQcyuu*.「増えていっている」
- (何故か) *oicyoriyuu/oicyoriyotta* も可だが、*oicyoicyuu* ~ *oicyoQcyuu* から *-cyok-* の異形態として *-cyor-* が使われることがあるようだ。

## 4. テンス・アスペクト形式の機能

- *-te#ar-* ~ *-cyaar-* 「～てある」はほぼ使われず、代わりに *-cyor-* が用いられる。
  - *daikoga kizaNzyaaru.*
  - *daikoo kizaNzyuu.*
- *-cyaar-* の非過去形 *-cyáàrú* は異形態として *-cyáù* の形もある。これは *-cyar-* 「てやる」の非過去形 *-cyárú* の異形態 *-cyáú* とアクセントでしか区別されないことも衰退の一因となったか（話者もしばしば両形式で混乱が見られた）。

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 5. とりたて形

- とりたて形式の調査結果は次の通り。
- *kakya* *seN* (*kaku*のとりたて否定形) と *kakikyaa* *seN* (*kakiyuu*のとりたて否定形) は混同される。

	<i>kaku</i>	<i>kakiyuu</i>	<i>kaicyuu</i>
～は する	△ <i>kakiwa suru</i> × <i>kakya suru</i>	△ <i>kakiyoriwa suru</i> × <i>kakiyoryaa suru</i>	△ <i>kaicyoriwa suru</i> × <i>kaicyoryaa suru</i>
～も する	△ <i>kakimo suru</i>	△ <i>kakiyorimo suru</i>	△ <i>kaicyorimo suru</i>
～は しない	○ <i>kakiwa seN</i> ○ <i>kakya seN</i>	○ <i>kakiyoriwa seN</i> ○ <i>kakiyoryaa seN</i> ○ <i>kakiyaa seN</i>	○ <i>kaicyoriwa seN</i> ○ <i>kaicyoryaa seN</i> ○ <i>kaicyaa seN</i>

## 5. とりたて形

- とりたて形に複数の可能性がある場合、次のような傾向が見られた。
  - *huate kiyuu* → ○ *huetewa kiyuu*  
△ *huetekiwa siyuu*
  - *huate ikiyuu* → ○ *huetewa ikiyuu*  
△ *huateikiwa siyuu*
- *-cyor-*, *-cyok-* のとりたての場合かどうか、要調査。



# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 6.1 調査概要

- 2018年～2024年に淡路島各地で実施。調査者は発表者1人。本発表の分析に用いる主なデータは次の話者のもの。

(25) 正井 良徳(1940年生, 男, 南あわじ市)

## 6.2 動詞活用のパラダイム

- 連用形接続と終止連体形接続の2つの禁止形がある点は共通。

(26) a. *-runà* *tàbérùnà*, *kàkúnà*, *kùrùnà*, *súrùnà*  
*tàbêNnà*, ----, *kûNnà*, *sûNnà*  
b. *-íná* (*tàbénà*), *kàkínà*, *kínà*, *sínà*  
c. *-nà* *tàbénà*, ----, *kúnà*, *súnà*

- 母音語幹動詞では b と c がアクセントを含め *tabena*「食べるな」と同形になる。

## 6.3 語順・共起関係

- 淡路では一応下記の全てのスロットを埋めることが可能。

(21) <sup>1</sup>使役 - <sup>2</sup>受身 - <sup>3</sup>{進行/完了} - <sup>4</sup>可能 - <sup>5</sup>{丁寧/希望} - <sup>6</sup>否定 - <sup>7</sup>{屈折接辞}

[例] *ki*<sup>-1</sup>*sas*<sup>-2</sup>*are*<sup>-3</sup>*yor*<sup>-4</sup>*e*<sup>-5</sup>*mahe*<sup>-6</sup>*naN*<sup>-7</sup>*da*

- ただし、論理的に考えれば言えなくもないとのことで、事実上不使用。

## 6.4 テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yoru</i>	<i>-toru</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-totta</i>
現在・完成	◎	○	○	○	○	○
過去・完成	×	×	○	◎	○	○
未来・完成	◎	○	△	×	×	×
現在・始動	○	△	×	×	×	×
過去・始動	×	△	○	△	○	○
未来・始動	○	○	△	×	×	×
現在・経験	△	△	◎	○	○	○
過去・経験	×	×	○	○	○	○
未来・経験	○	○	△	×	×	×

## 6.4 テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yoru</i>	<i>-toru</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-totta</i>
現在・結果	×	△	◎	○	○	○
過去・結果	×	△	○	○	○	◎
未来・結果	○	○	△	×	×	×
現在・習慣	○	○	○	×	×	×
過去・習慣	×	×	○	◎	◎	◎
未来・習慣	○	○	○	×	×	×
現在・進行	○	○	○	×	×	×
過去・進行	×	△	○	△	◎	○
未来・進行	○	◎	△	×	×	×

## 6.4 テンス・アスペクト形式の機能

	<i>-ru</i>	<i>-yoru</i>	<i>-toru</i>	<i>-ta</i>	<i>-yotta</i>	<i>-totta</i>
現在・反復	○	○	○	△	△	△
過去・反復	×	×	○	○	○	○
未来・反復	○	○	○	×	×	×

- *-ta* の付く *-ta*, *-yotta*, *-totta* が過去の事態を表す場合に用いられ、*-ta* は過去時制を表す形式と言える。
- *-toru* が 過去テンスというより、*-yoru* と同様に進行相を表す方向に用法を拡張していることが窺える。

## 6.5 テンス・アスペクト形式の機能

- 不可だったのは次の組み合わせ。
  - 東京にいるときにカメラを買う。× *ottoru*
    - ✓ 従属節 *-ta*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-yotta*、主節 *-ru*
  - 東京で働くときにカメラを買う。
    - ✓ 従属節 *-yotta*、主節 *-ru*
    - ✓ 従属節 *-totta*、主節 *-ru*



## 6.6 とりたて形

- とりたて形式の調査結果は次の通り。
- *-yoru*形では \**kakkeheN* のような形式が見られない。

	<i>kaku</i>	<i>kakkyoru</i>	<i>kaitoru</i>
はする	△ <i>kakiwa suru</i> △ <i>kakya suru</i>	△ <i>kakkyoriwa suru</i> △ <i>kakkyorya suru</i>	△ <i>kaitoriwa suru</i> △ <i>kaitorya suru</i>
もする	△ <i>kakimo suru</i>	△ <i>kakkyorimo suru</i>	△ <i>kaitorimo suru</i>
はしない	△ <i>kakiwa seN</i> △ <i>kakya seN</i> (○ <i>kakeheN</i> )	△ <i>kakkyoriwa seN</i> △ <i>kakiyorya seN</i> (○ <i>kakkyoreheN</i> )	○ <i>kaitoriwa seN</i> ○ <i>kaitorya seN</i> (○ <i>kaitoreheN</i> ) (○ <i>kaiteeheN</i> )

## 6.6 とりたて形

- とりたて形に複数の可能性がある場合、次のような傾向が見られた。
  - *huate kiyoru* → ○ *huetewa kiyoru*  
○ *huetekiwa siyoru*
  - *huate ikkyoru* → ○ *huetewa ikkyoru*  
○ *huateikiwa siyoru*
- *-tor-*, *-tok-* も2通り可能で、*kaitoru* → *kakiwa sitoru*, *kaitewa oru* とともに言えるという。

# 発表の流れ

1. 高知方言について
2. 調査概要
3. 動詞活用のパラダイム
  - 3.1 語順・共起関係
  - 3.2 接辞の異形態
  - 3.3 アクセント単位
4. テンス・アスペクト形式の機能
5. とりたて形
6. 淡路方言との対照
7. まとめ

## 7. まとめ

- 本発表では、高知方言の動詞接辞を中心にテンス・アスペクト・モダリティ体系について、形式と意味の整理を行った。とりわけ、次の点に焦点をあてた。
  - 「ユー / チュー」(-yor-/-cyor-)の機能
  - とりたて形
  - 他方言との比較、対照
- -cyor- の機能の変化、とりたて助詞の位置、並行変化の要因などが新たな課題である。

# 参考文献

- 上野和昭(2003)「日本語アクセント史研究とアクセント観」『音声研究』7(1): 47-57.
- 上野智子(編)(2020)『日本のことばシリーズ39 高知県のことば』東京: 明治書院.
- 江畑 冬生(2022)「言語類型論から見た日本語の動詞形態法と統語的派生」『言語の普遍性と個別性』13: 23-50.
- 中井幸比古(編)(1997)『高知市方言アクセント小辞典』神戸: 神戸市外国語大学.
- 中井幸比古(編著)(2002)『京阪系アクセント辞典』東京: 勉誠出版.
- 中澤光平(2022)「高知方言における文末詞gaによる無核化とアクセント単位」第36回日本音声学会全国大会.